

総合交通政策調査特別委員会

（平成24年10月5日）

豊田政典委員長

皆さんおはようございます。総合交通政策調査特別委員会を開催します。急な開催になりましたが、また、FAXで通知したのですが、徹底されていなかったようで、届いていなかった方も見えたようです。大変申し訳ないところですが、お集まりいただきましてありがとうございます。時間がない中で、一つの議題について、皆さんでお決めいただきたいということで急遽集まっていただきました。午前11時から議会運営委員会がありますし、そんな中で、結論だけいただければと思っております。土井委員については、事前に趣旨をお話した上で了解を得ていますが、代表者会議と重なりましたのでご容赦いただいて、賛成ということで、欠席されています。また、日置委員についてはおくれて来られるということです。

何かというと、表題のとおりですが、次の委員会までに約1カ月あります。その間、既に前回からいろんな動きがある中で、我々としては鉄道の存続という方向で議論を続けておりますが、この1カ月を活用して、市民の皆様から広く利用者、乗客増加のアイデア及びその他存続に関するアイデアというのを広く募って、それを精査した上で、議論の俎上に載せられるものについては、使わせていただくと、そんなことを約1カ月間やってはどうかということ、私から提案させていただきたいということで、お集まりいただきました。そのことを皆さんに了解いただいたならば、議長に提案をいたしまして、その後の取り扱いについて一任いただければ、議長と共に手続きを始めたいということで、急遽お集まりいただいております。“近鉄「内部・八王子線」の乗客増加、および、存続に関する市民アイデア募集の概要(案)”というのをお配りしています。募集文案と募集事項、応募方法、募集期間、募集広報ということで配っている素案ですけれども、こんなイメージで提案したいと思っております。募集文案については目を通していただき、募集事項については1番と2番、それから、応募方法については電子メール、FAX、郵送、募集期間としては、早速手続きに入らせていただいたならば、10月上旬から1カ月程度、広報としては、議会ホームページ、地区市民センターへのチラシ配布、それから新聞各社に告知掲載を依頼する、そんなところまで考えたのですが、皆様から忌憚のない意見をいただき、結論をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

山口智也委員

賛成の立場ですけれども、市民と行政が協同して存続させるということが、根本的にこれから必要になってくる部分だと思いますので、その糸口が見つかることも考えられますし、是非とも進めていきたいと思うのですが、この募集方法ですけれども、市議会だよりが次回発行される時期はいつでしたっけ。ちょうど期間的には間に合うかもしれないので、市議会だよりも、もしよかったら入れていただければと思うのですが。

豊田政典委員長

事務局分かりますか。次の市議会だよりの発行日。1カ月ぐらいかかるんやんな。ちょっと教えてください。分かる範囲で教えてください。

清水議会事務局副参事

今、一般質問等の原稿を起こさせていただいているところですので、載せるタイミングはまだあるかと思うのですが、紙面の調整等をさせていただく必要があるかと思います。

豊田政典委員長

発行日は分かるか。

清水議会事務局副参事

発行日は済みません。分かりません。

豊田政典委員長

分からない。広報広聴委員の方も見えますけれども、山口委員もそうですが、結構先ではなかったですか。

諸岡覚委員

11月の初めぐらいだったと思う。

豊田政典委員長

確かね。そうするとタイミング的には間に合わないかなと思いますし、あわせて広報よっかいちも編集作業に入っていますから、間に合わないということを確認しています。ですから、告知方法というのはすごく限られてきて、残念なんですけれども、今のところ資料の一番下に記した手段しかないのかなというふうに思っています。

小林博次委員

大賛成なんやけど、行政も議会も同じ方向を向いて走って、基本的にはこんなことは行政がやるべきことだと思うんだけど、それはどうやって調整してるの。

豊田政典委員長

きちんと調整までしてないんですけど、都市整備部と少し話をしましたが、行政の基本スタンスというのは鉄道存続という方向は変わらずに、これから近鉄と協議していくんですが、このタイミングで行政としてこういった募集をするというのは、この後、どう変わっていくのかが分からないので、不安があって二の足を踏むところがあるという、個人的な意見かもしれませんが、そんなことはもっています。

小林博次委員

行政がやらないのなら議会でもいいけども、チラシ配布するというのは調整の範囲を超えてしまうと思うんやけど、だから、意見を集めて、こんなことがありますよってということで、調査報告に盛り込んで、報告をするということが我々の仕事かなと思っているんやけど、行政が参加すると、じゃあ知らせるかというところまでは行けると思うんやわな。向こうの金でな。だから、やっぱりその辺をきっちりと詰めて、だからこの委員会の報告を詰めて持って行って、もちろん議長サイドの了承もいるやろうけど、行政側の了承も取り付けておくと、そっちの金でそっちでやってくれる。もちろん連名でやれるやろうけど。

豊田政典委員長

今、いただいた意見で思ったんですけど、意見募集するについては、基礎データというのを例えばホームページに載せないといけないんですけど、議会の方で思っていたんで

すけど、例えば行政で資料を持っていますし、あるコーナーを作ってもらえたらね、そっちを見ながら、こっちは意見募集だけをする、そんな方法がいいかも分らないですね。その辺は、やるとなったら行政と詳しく打ち合せをさせていただきます。

毛利彰男委員

大賛成です。ただですね、議会としては本来、将来的には絶対にやってかないかんことやと思うんですけども、ルール化されてないんですよ。委員長と副委員長、あるいは他の方からのアイデアかもしれませんが、基本的にはいいなと、やるべきだなと思っています。これだけじゃなくてね、いろんな形で。それで、やっぱり議会として、これを皮切りにルール化していくべきだなと思います。その中で、苦言にもなるかも分らないやけど、去年、議長をやらせてもらった時に豊田委員長と中川副委員長の産業生活常任委員会から随分すばらしいアイデアをいただきました。いいなと、議会改革につながるなというのをもらいましたけどね、一言で言うと全部じゃないけれども、かなり大きな打ち上げ花火で終わったやつもあるわけですね。そこら辺やはり反省を、その時限りのアイデア勝負をするのではなくて、やっぱり一つは、今言ったルール化を、それから、出していた方にどういう資料を与えて、小林委員の言ったことにもつながるんやけど、そういう双方向の交流をするためには、何かないかなというだけではなくて、こういうデータを基に、いろんな意見を聞かせてくださいという姿勢、それから、もらったものは、やっぱり貴重な意見ですので、議会だけが内蔵するのではなくて、市民に広く、それは還元というか、オープンにすべきやというふうに思うし、出してもらった人にフォローはせないかんと思うのね。だから単にもらって、参考程度にするというのではなくて、さらにもう一歩進める、その意見をどう料理していくかという、そこら辺の落としどころをきちっと考えてやらんといけないと。それで、いいチャンスやと思うので、是非、議長にも議会運営委員会や各派代表者会議に諮っていただいて、新しい制度として、これをスタートできるように、そういうものに高めていただきたいなと、そんなふうに思います。

豊田政典委員長

ありがとうございます。そのあたりも議長にお願いをして、我々も協力できるところは協力していきたいと思いますので、ありがとうございました。ルール化について。ほか。

中川雅晶委員

私も、市民の意見を聞くということは反対ではないです。聞くべきだとは思いますが、ただ、今のタイミングかなって、正直言って疑問です。総合交通政策調査特別委員会で、はっきり言って、そんなに深い調査をしていない段階で市民の意見を聞いて、どういう方法を持っていくのかなというのがあるので、また、市民にいろんな情報を提供すると書いてもですね、近鉄のいろんな経営上の情報とかということも出てくるので、そういうところのすり合わせもできていない段階で、総合交通政策調査特別委員会として、いろんな数字を指し示していない段階で、これをして逆の効果になったりとか、一番恐れているのは、この総合交通政策調査特別委員会の存在自体が、すごく軽いものになってしまう可能性も、私はものすごく危惧していますので、タイミングだけ、委員長、もう少し考えられたほうがいいかなと私は思います。

豊田政典委員長

というご意見ですね。近鉄というか、内部・八王子線関連の収支状況にしても、まだ、一つをもらっただけで、これから調査で、精査していく段階じゃないかと、ここははっきりしてからでもいいんじゃないかと、そんな意見ですね。どうでしょう。

毛利彰男委員

やっぱり、もらうだけではなくて、もらったものをどう活用して協議していくか、落とすところをどうするか、そういうことをしっかりと押さえて、誰がこれをフォローしていくのかという体制も含めて、きちっとしたものを作った上で、やるべきだと思います。ただ単に何かないかというのは、軽いと思う。

豊田政典委員長

一つには、我々、12月中に一定の方向性を出すという時間が迫っているというのが一つ、それから、つらつらと考えてみて、これから議論していく内容としてね、もちろん税金投入の是非については最終的に判断するんですけども、それと合わせて、乗客増加という方法というのを、これまでも少し議論しましたけど、このことの、提案とまでは行かない

かも分かりませんが、議論というのも、もう一本の柱であると思うんですよ。総合交通政策調査特別委員会の議論でね。そのために、中川委員の言われるのも確かにそうと、うなずくところもあるんですけども、市民からいただいた意見というのは、その数字が正確なものであるかというのは、あまり関係がないという言い方は変ですけども、今の段階でもいろんな提案というのを受けておいて、この後、数字と照らし合わせながらということも可能だと思うんですよ。だから、広報と広聴ということで考えれば、特別委員会でこんな議論をしている、こんなデータがあるというのは、これからもやっていかななくてはならないと思うんですけども、もちろんルール化した上で、それはしていくとして、現段階で、広聴機能で市民の皆様から意見をいただき、また、関心を持ってもらうというのはタイミング的には悪くないんじゃないかなと思うんですけどね。中川委員の言われることもよく分かりますが。

中川雅晶委員

市民の意見を聞くというのは、こういうホームページで意見を募集するというやり方もありますし、シンポジウムをやるということもありますし、討議型の世論調査っていうやり方も、いろいろあると思うので、その手法も含めて、タイミングも含めてもうちょっと熟慮した上で丁寧にやったほうがやっぱりいいんじゃないかなって、私はそうやって思います。

豊田政典委員長

そうしたいのは山々なんですけれども、何せタイムリミットがありますから、その辺ですわね。

中川雅晶委員

タイムリミットっていうのは、もうそれは確実に決まっているのでしたっけ。

豊田政典委員長

今年中に一定のまとめというのが一つ、それから後は、来年7月、8月というやつですよ。他の方の意見、中川委員の意見はよく分かってもらったと思うんで、他の意見も聞

いてみたいと思いますが。時期も含めてね。手法。どうですか。難しいですね。

石川善己委員

質問いいですか。

豊田政典委員長

はい、石川善己委員。

石川善己委員

このアイデア募集ということ自体は非常にいいことだと思うんです。一つ確認と言うか教えていただきたいんですが、存続させるためのアイデアと乗客増加のためのアイデアということで、意見を募集するわけですが、これは行政ができる部分だけじゃなくて、近鉄に対しての要望も含めてということなのか。どちらでいくんですか。

豊田政典委員長

もうちょっと丁寧に書かないといけないと思うんですが、私の現時点のイメージは、市民とか行政とかですね。近鉄に対して、こうしてくれというんじゃなくて。

石川善己委員

分かりました。そういう部分は基本的に入れずに、行政としてこういうことをしてもらったらいんじゃないかという声を集めるということですね。

豊田政典委員長

行政であり、市民なり自治会、高校生や我々ということですよ。

石川善己委員

分かりました。一つ気になったのが、例えば近鉄の経営権の中に入る提案というもので、非常にいいアイデアが出てきた時に、最終ここで揉んで、近鉄にこういう提案があって、これをやったらどうでしょうと言った時に、聞く耳を多少でも相手側が持っているのか、

赤字を補填してもらえやんのやったらやらないし、どんなアイデアが出てきても聞く耳がないよって言うのであれば、そういう部分に関しては市民に意見を求めてもあれなのかなと思って、そういう質問をさせていただきました。

豊田政典委員長

あくまでも私のイメージですけれども、言われるとおり、近鉄がやることを募集したり提案してもなかなか難しいと思うので、よっぽど具体性があり説得力のあるものであれば別ですけれども、基本は市民であり、行政とか高校生や自治会、そういった乗客側の努力というか提案、企画だと思うんですよ。それならば、近鉄はちょっと別個になる部分が大いなので。どうしましょう時間。それこそタイムリミットが近づいていますが。

日置記平委員

ごめん遅なった。どうでしょうって。

豊田政典委員長

やるかやらんかって。

日置記平委員

そらやらなあかん。

豊田政典委員長

マイクじゃあお願いします。

日置記平委員

やらなあかんって言うより、市民の、市民と言っても中心部から南やけど、多くの人からいろんな形で伝わってくるんで、なくなると困るというのは伝わってくる。なら、一つの方法として、市民が考えていることの提案を求めるのも一つやろ。署名運動よりこのほうが大事やな。私はそう思う。これはもう是非やるべきや。やらなかったら前に進まないんで、策としては、まず第一にこれをやるということです。あと、いろいろあるけど、ど

うするかっていったら市民アイデアというのはお願いすべきだろうと、困る困るだけではあかんわけだね。それで、これは誰のためにアイデアを募集するのって、市民のためや。

豊田政典委員長

ありがとうございます。小林委員。

小林博次委員

関連で。近鉄は今、大阪に約300mの建物に1,500億円くらいかけているわけやな。よそへ出す金はないと思ってるんやけど、名古屋駅も今までJRと離れていたから、乗り入れするみたいな計画が動いていくと思うんやけど、だから、そこでも、ほとんど金出さずに、県や市で出してくれと、こすいんやわな言うてみれば。ということが一つと、少々のアイデアを持っていっても通らない可能性が高いということと、これは推測やけど、そんな固定観念で見なくてもいいんやけど、ただ、四日市市と連合自治会が共同歩調を取りつつあるところで、議会が離れて別のことをやるというのは、ちょっと対応としては問題があるかなというふうに思っている。ただ、議会の調査の新しい手法として、こういうものが取り入れられる。だから、恐らく今後は、これが発展していくと、特別委員会ではなくて、議会そのものがやるような格好で、推移するんやろうなと思ってるんで、試しにするというのはいいことですけれども、中川委員も提案されとったけれども、問題はアイデアが出た時に、聞いたけどあきませんでしたわということが、果たして許されるのかなと、だから、その辺りの落としどころをどこにどうやって持っていくのかということをしちっと腹づもりを持たないと、結果的にアイデアはよかったけど、失敗する危険もあるということとは理解しておいたほうがいいのかなと。でも、行政やら連合自治会については早急に理解を求めるような作業は、議会としてやったほうがいいと思うな。以上。

豊田政典委員長

ありがとうございます。時間がもうすぐ終わりなんですけれども、いろいろ意見いただきました。小林委員の最初の発言については了解しました。そのようにさせていただきます。行政とのすり合わせ。毛利委員のところのルール化についての働きかけ及びもらったアイデアを公開する方向、それから本人に対してフィードバックするというのはルール化

する前ですけれども頭に入れて進めたい。それから、石川委員の誰がやるアイデアなんだというところは、皆さんそれでよければ、近鉄に対してこうせいじゃなくて、乗る側が、市民の側がということをもっと分かりやすく文書化して募集したい。それで、中川委員が言われるところが一番の悩みどころなんですけれども、私は特別委員会が軽くなると、そういうことではないのかなと思うんですよ。市民の意見を反映して議論していくというのはごく自然なことで、私の素案の文章が軽いのかもしませんが、この行為自体は軽く見られるというのは、あまり気にしなくていいという気がする中で、タイミングというのは確かにありますが、賛成の意見もたくさんいただきましたから、中川委員、他の方もそうですが、いろいろ準備不十分なところはありますけれども、やってみませんか。どうでしょう。中川委員も含めて。

伊藤 元委員

私は賛成をしていきたいと思います。石川委員が言われたことにちょっと関連しているんやけども、さらに、もう少し具体的に言えば、自分たちで何ができるのかっていうことですよね。ですからそれを、自助、共助、公助の区分けをして、皆でこういったことをして、やってみようよという分かりやすいような形でね、ちょっと広報していただきたいなということだけちょっと付け加えておきたいと思います。それと、やっぱりある程度聞けば、多くあった意見というのはある程度実行してかんなんらんといいことがありますので、それをやってどうなのかという結果は分かりませんが、時期的に早くやるべきではないかなと思います。以上です。

毛利彰男委員

委員長のおっしゃるとおりで結構ですわ。さっきも申し上げましたように、この委員会というのがなくて、議会としてやったほうがいいんじゃないかなと思いますので、議長から各派代表者会議に相談していただいてね、大体総意やと思うんですわ。そんなふうでどうですかね。

豊田政典委員長

ありがとうございます。実は今朝も議会事務局長と話をしておったんですけど、やろう

ということで、ここで方針が決まったら、今日中に議長と相談させていただく時間を作ってもらって、それで、間接的に議会事務局長から聞いた話では、全議員に周知して了解を得たほうがいいだろうということを議長が言われているそうなので、その辺りも、どういう形になるかは議長次第ですけれども、また意見をもらうこともあると思いますけど、とにかく、議長に提案をしていくということで進めたいと思う。

小林博次委員

全議員はいいんやけど、議会に持って行ってさ、議会というのは各派代表者会議があるので、そこで決めてもらうということでええんとちゃうのかな。そこで一人ひとりに聞かんでも、会派から来とるのがよかったらええぞというふうに決めてもらったら。

豊田政典委員長

その方向で提案していきたいと思います。中川委員、何とか了解いただけませんか。

中川雅晶委員

議長名で議会がやろうということであればいいと思います。この委員会でやるのではなくて、議会としてやるというほうがいいと思う。

豊田政典委員長

そういう提案にしましょうか。議長名で提案してくれませんか、それで我々が受けとめて使わせていただきたいんで、それでよろしいですか。

(異議なし)

豊田政典委員長

どうもありがとうございました。それでは、その線ではこちらで進めさせていただきますので、またお知らせします。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

10 : 58 閉議